

抗生物質の服用感情情報のデータベース作成に関する研究

○鳥井 真緒¹, 保坂 萌¹, 徳井 幸旗², 奥 覚子², 鈴木 聡子², 小林 江梨子¹, 佐藤 信範¹
(¹千葉大院薬, ²データインデックス)

【目的】服薬指導において、服用感に関する情報をより簡便に検索可能なツールとして、抗生物質を対象としてデータベース（以下 DB）の構築を試みた。

【方法】『使用薬剤の薬価（薬価基準）に記載されている医薬品について（平成26年4月1日適用）』に記載されている抗生物質のうち、ドライシロップ・顆粒・散・細粒・シロップ剤 118 品目を対象薬剤とした。対象薬剤の添付文書、インタビューフォーム、その他製薬企業のウェブサイトにて入手可能な資料（患者配布用資料等）から、YJ コード、製品名、成分名、製造販売企業名、先発後発区分等の情報、薬剤の味やにおい、添加物、飲食物や他剤と配合した際の味やにおいの変化の情報を抽出した。DB 作成には Microsoft® Access® 2010 を用いた。

【結果】製品名により、服用感情情報等を検索できるように設計した。薬剤と飲食物を配合した際の味の変化は 4 段階評価により表現した。また、薬剤そのものの味やメーカー名、経過措置期限等詳細な情報を確認することも可能とした。必要に応じて、情報出力画面を印刷することも可能である。

【考察】本 DB により、現状では散見されている薬剤の服用感に関する情報を素早く簡易に抽出することが可能になった。飲食物との混合時の味の変化を 4 段階で示すことにより、薬剤師が視覚的に情報をとらえることができる。また、詳細情報も閲覧が可能なため、薬剤師のニーズに合わせた情報抽出ができる。本 DB は、小児患者に対する服薬支援に役立つと考えられる。